

神奈川県南支部のホームページは（[全日本建設交通一般労働組合 \(ctg-kennan.net\)](http://ctg-kennan.net)）をクリックか右のQRコードからアクセスできます。分会・班の間には多くの労働者に広げてください。



建交労



2026年3月17日

かながわけんなんしふ

建交労神奈川県南支部

2026年春闘 No.11

2025年度推進ニュース⑱通算409

発行責任者 小島 茂

原発ゼロへのカウントダウン in かわさき 未来に責任持てない原発推進を許すな！



穏やかな春の日差しが降りそそぐ3月15日、第15回を迎えた“原発ゼロへのカウントダウン in かわさき集会”が川崎市の中原平和公園で開催され市民団体・平和団体・民主団体・労働組合・弁護士・政党・個人など多種多様な人びと800人が集いました。

神奈川県南支部では小島委員長、金崎書記長をはじめ佐藤執行委員、和泉・大島・赤羽特執、合同分会の益山・河野・根井・宮田さんの合計10名が参加しています。

2011年3月11日の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発での苛酷事故のあと、国は“原発の依存度を可能な限り低減する”という方針を獲らざるを得ませんでした。しかし、大手電力会社や米国などの原発推進勢力の強い要求を受けた岸田自公政権は昨年2月18日の閣議で“原発を最大限活用する”との第7次エネルギー基本計画を決定し原発回帰へ大きく舵を切りました。



ウソとカネで捏造られる原発の安全神話

2月の衆議院選で「圧倒的勝利を収めた」高市政権は、この閣議決定も背景に原発再稼働を加速するにとどまらず原発の新增設を推進する政策を明確にしています。

自民党政権のこうした政策の背景には、福島原発事故の国や東京電力の責任を迫及する原発被害者の提訴をことごとく退けてきた裁判所の不当判決や原発再稼働を容認する原子力規制委員会の無責任なお墨付きがあります。しかし、今年1月に再稼働を強行した新潟



県柏崎市の東京電力刈羽原発では発電機の漏電を知らせる警報が作動して発電・送電を停止しました。また静岡県御前崎市の中部電力浜岡原発の再稼働を巡るデータ不正が発覚するなど、国と電力会社がウソとカネで振りまく原発事故後の第2次「安全神話」は破綻しています。

集会では、福島第一原発事故被災者・原発事故被害者訴訟原告、ヒロシマナガサキビキニフクシマ伝言館事務局長として全国を駆け巡り原発事故の実態を語り、原発

原事故での実態を語る丹治杉江さん

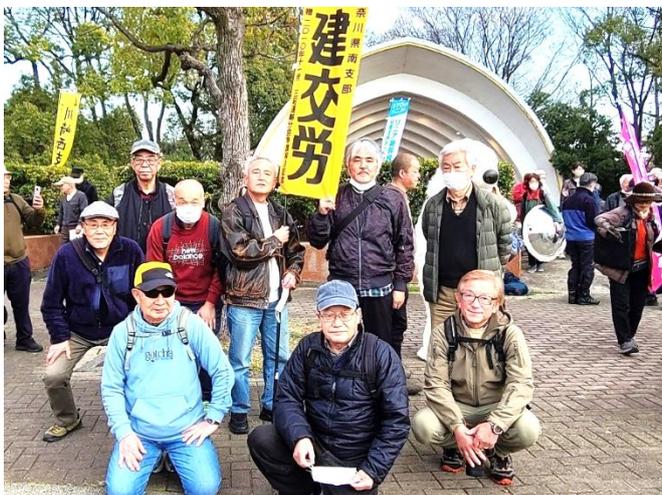
も核もない世界を展望して活動する丹治杉江（たんじすぎえ）さんが登壇し「原発被災者と被災地の現状」「国・電力会社・裁判所・原子力規制委員会が一体となった原発推進」などの実態について報告し参加者の共感を呼びました。

また、スペシャルゲストには新潟国際情報大学国際学部教授の佐々木寛さん（再稼働の是非を考える新潟県民ネットワーク事務局長、おらってにいがた市民エネルギー協議会代表理事）が「原発事故は原発を推進した国も自治体も電力会社も責任をとらない。この体質は侵略戦争などの責任を取らない明治政府以降の政府・官僚・権力者による中央集権国家の体質だ」と告発し「現状を変えるために市民主体の運動で地方自治の民主化を含む地方分散型社会を展望しましょう」と呼びかけました。



脱原発運動の展望を語る佐々木寛教授

そのあと集会は、再エネ・省エネ推進、沖縄の基地問題解決、原発被害者訴訟原告団、リニア新幹線を考える会、脱原発かわさき市民などの団体による報告・訴えと集会宣言が採択され、“かわさき集会”共同代表の三島弁護士による挨拶で閉会しました。集会後は武蔵小杉駅前までのパレードに出発し原発ゼロを市民に僚アピールしました。



集会会場の中原平和公園に集う神奈川県南支部の仲間



パレードに参加する神奈川県南支部のメンバー